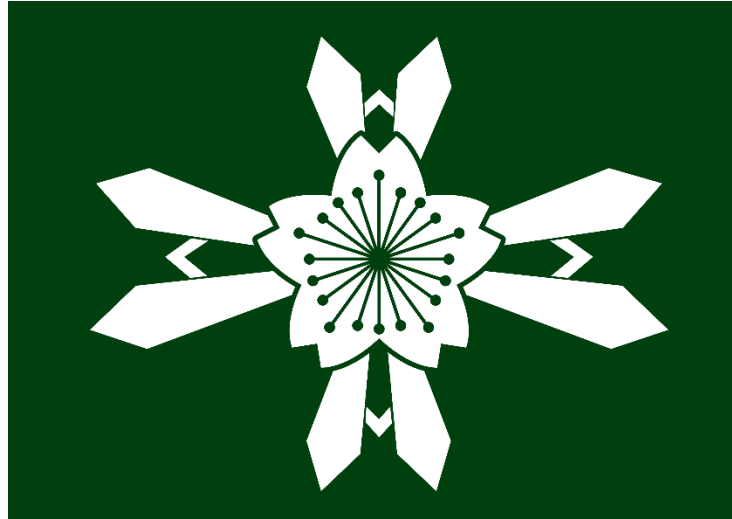


令和8年度 学校要覧



〈学校目標〉

夢・可能性・生きぬく力

〈教育目標〉

人と向き合い、社会とつながりながら
自ら考え、伝え、行動する幼児及び
児童生徒の育成

京都府立聾学校

〒616-8092 京都府京都市右京区御室大内4
TEL 075-461-8121 FAX 075-461-8122
<https://www.kyoto-be.ne.jp/rou-s/cms/>



舞鶴分校

〒624-0853 京都府舞鶴市字南田辺 83
TEL 0773-75-1094 FAX 0773-76-2711
<https://www.kyoto-be.ne.jp/mourou-maizuru-s/cms/>

1 沿革

明治 11(1878)年 5月 24 日中京区船屋町に「日本最初盲啞院」開学 初代院長古河太四郎
明治 12(1879)年 9月府庁前に校舎完成(移転)
明治 13(1880)年 職業教育開始 聾児は彫鐫、指物、刺繍 明治 17 年に日本画等を加え 11 科に拡充
明治 14(1881)年 寄宿舍開設 工学場(職業科教室)完成
明治 22(1889)年 京都市に移管
明治 32(1899)年 校舎全面改築 教育方法としてベル視話法採用
明治 36(1903)年 創立 25 周年式典 「京都市立盲啞院一覧」「盲啞教育論」等発行
大正 10(1921)年 1 年生から口話教育を開始 以後口話法に転換
大正 14(1925)年 聾啞学校令(大正 12 年)により盲啞院を分離「京都市立聾啞学校」となる
大正 15(1926)年 保護者有志「京都聾口話幼稚園」を創立(昭和 3 年「京都聾口話学園」と改称)
昭和 4(1929)年 創立 50 周年事業 「日本盲啞教育史」を発行
昭和 6(1931)年 京都府へ移管「京都府立聾啞学校」となる 聾口話学園を統合し第二教室とする
昭和 7(1932)年 口話法の進展により「啞」をはずし、「京都府立聾学校」となる
昭和 20(1945)年 戦争の激化により第二教室は学校工場 校舎の大半を建物疎開で取り壊す
昭和 23(1948)年 新学制により義務化
昭和 26(1951)年 現在地に移転 校舎等新築
昭和 27(1952)年 本校小学部に幼児学級及び重複障害児学級開設
6 月 舞鶴分校が舞鶴市西公会堂で開校し、10 月に現在地へ移転
昭和 28(1953)年 本校、分校とも寄宿舍の建設に着手
昭和 37(1962)年 本校幼児学級は、幼稚部として3年保育、2歳児教育相談を開始
昭和 43(1968)年 創立 90 周年記念行事実施 「90 年誌」発行
昭和 48(1973)年 職業訓練棟竣工
昭和 53(1978)年 開学 100 周年記念式典挙行 「京都府盲聾教育百年史」等発行
昭和 56(1981)年 本校校舎全面改築
昭和 63(1988)年 開学 110 周年記念行事実施
平成 7(1995)年 本校に「ふれあいの森」竣工
平成 10(1998)年 開学 120 周年記念行事実施
平成 13(2001)年 校歌制定
平成 19(2007)年 聴覚支援センター開設
平成 21(2009)年 全国聾学校陸上大会京都大会開催
平成 24(2012)年 高等部新学科開設
平成 30(2018)年 「京都盲啞院関係資料」3,000 点が国の重要文化財に指定(本校所蔵 367 点)
平成 31(2019)年 学校運営協議会設置(本校)
令和 3(2021)年 学校運営協議会設置(舞鶴分校)
令和 6(2024)年 南部視覚・聴覚支援センター開設(京都府立南山城支援学校内)

2 令和 8 年度学校経営計画(学校経営の重点)

1 安心・安全な学校づくり

- (1) 安心して学べる教育環境を維持し、様々な教育活動の展開
- (2) 避難訓練や防災・防犯学習、安全指導の計画的な取組及び連絡・連携の強化
- (3) 安心・安全な給食・舎食の実施や校内環境の整備

2 魅力ある学校づくり

150 周年を節目(キャリア教育の充実)必要な体験に積み上げ、失敗しても挑戦できる力の育成⇒乗り越える経験の蓄積(キャリア教育)

- (1) 可能性の追求 “挑戦する” 挑戦したい気持ちを引き出す、達成の過程を支援
- (2) 知識・技能の追求 “知る、学ぶ、教える”
指導方法、支援・手立てを磨く 言語力、考える力、伝える力の育成
- (3) 集団・学び合いの追求 “子どもが輝ける場”
集団と機会を創造する 個別最適・協働的な学び、本校の特色を活かす学び
- (4) 共生社会の実現を目指したインクルーシブ教育の推進

3 魅力の「発信」

- (1) ホームページによる活動や取組の発信
- (2) 子どもの取組、本校の良さ・強みを伝える 子どもの挑戦、異年齢集団の学び合い、指導の専門性

4 専門性の向上(研修・研鑽)

- (1) 手話等の技術向上、発音・発語及び教育オーディオロジーに関する研修・研鑽

5 地域支援センター(聴覚障害のあるお子さんへの相談支援)

- (1) 3つの聴覚支援センター(北部、本校、南部)の連携
- (2) 府南部地域の早期相談支援を教育へつなぐための連携
- (3) 指導者・支援者等へ、専門性向上のための研修・支援

3 幼児・児童・生徒の実態

1 学部・学年別在籍数

(1) 本校 (令和8年5月1日現在)

学部	幼稚部				小学部							中学部				高等部				合計
学 年	3 歳	4 歳	5 歳	小 計	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	小 計	1 年	2 年	3 年	小 計	1 年	2 年	3 年	小 計	
男子	3	2	2	7		2	1	1	3	2	9	1	1	2	4	3	4	1	8	28
女子	3	5	7	15	1	1	1	2	1		6		1	1	2	1		4	5	28
合計	6	7	9	22	1	3	2	3	4	2	15	1	2	3	6	4	4	5	13	56

(2) 分校 (令和8年5月1日現在)

学部	幼稚部				小学部							中学部	高等部	合計
学年	3歳	4歳	5歳	小計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計			
男子	2	3		5	1						1			
女子							1	2			3			
合計	2	3		5	1		1	2			4			

2 地域別学部在籍人数

(令和8年5月1日現在)

学部		地域名	京都市	向日市	長岡京市	宇治市	城陽市	八幡市	京田辺市	木津川市	亀岡市	南丹市	綾部市	福知山市	舞鶴市	宮津市	京丹後市	乙訓郡	久世郡	綴喜郡	相楽郡	船井郡	与謝郡	府外	小計	合計
幼稚部	本校		20	1		1																			22	27
	分校												1	1			3								5	
小学部	本校		14	1																					15	19
	分校												1		1								2		4	
中学部			5	1																					6	6
高等部			9			1					2			1											13	13
計	本校		48	3		2					2			1											56	65
	分校												2	1	1		3						2		9	

3 学部別聴力レベル分布状況

良聴側の平均聴力レベル(4分法)による。(令和8年5月1日現在)

学部 dB	本 校					分 校			合 計
	幼稚部	小学部	中学部	高等部	計	幼稚部	小学部	計	
60未満	1			3	4	1	1	2	6
60～ 69	5	1			6	1		1	7
70～ 79	2	1		2	5				5
80～ 89	1	2	2	2	7	1		1	8
90～ 99	3	2	1		6				6
100～109		3	1	3	7		1	1	8
110～119	1	1			2				2
120～									
測定不能・不可※	9	5	2	3	19	2	2	4	23
計	22	15	6	13	56	5	4	9	65

※両耳人工内耳の場合、裸耳聴力の測定は行いません。

4 教職員数（常勤）

（令和8年5月1日現在）

	本 校			舞 鶴 分 校			合 計
	教員数	職員数	本校計	教員数	職員数	分校計	
男	28	14	42	4	3	7	49
女	47	14	61	11	2	13	74
計	75	28	103	15	5	20	123

注)教員数の内訳は

校長・副校長・総括主事・指導教諭・教諭・養護教諭・栄養教諭・講師。

注)職員数の内訳は事務長・実習助手・寄宿舍指導員・事務職員・学校施設管理職員・技術職員。

5 校 歌

京都府立聾学校 校歌
夢・勇気

藤田 陽三 作詞
大中 恩 作曲

♩ = 68 (♩1)

1. は な ほ ま い ど り う た う
2. な が れ ゆ く れ き し の

き ぬ け の み ー ち わ れ ら わ
ほ こ り た か ら か に わ れ ら わ

こ う ど ぶ ゆ め ふ く ら ま ー せ と も
こ う ゆ う き を わ か ー せ お お

と き か た ら う た の し く し
か な ゆ め は は し く し

1. よ

2. rit. う

京都府立聾学校 校歌
夢・勇気
藤田陽三 作詞

一花は 舞い
鳥 歌う きぬかけの路
われら わこうど 夢ふくらませ
友と 語らう 楽しさよ

二流れゆく
歴史の ほこり 高らかに
われら わこうど 勇気を湧かせ
大きな 夢を 育もう

